

「Tanjung Piai in Johor」

訪問日時：8月24日

移動手段：バス

訪問場所：Tanjung Piai

Tanjung Piai (タンジュンピアイ) とは、マレー半島の最南端、つまり、ユーラシア大陸の最南端の地のことである。付近一帯はタンジュン・ピアイ・ジョホール国立公園 (Tanjung Piai Johor National Park) に指定されており、最南端のモニュメントやマングローブを観察する遊歩道などが整備されている。公園管理局からユーラシア大陸最南端到達証明書ももらえるそうだ。



(マングローブの入口にあった記念碑)

マングローブの林を抜けた先に、最南端を記念する大きな地球儀がある。その周りに広がる海は、マラッカ海峡とジョホール海峡とシンガポール海峡の合流点であり、世界でも有数の海上交通の要所だ。Tanjung Piai からは非常に多くの船舶も見ることができる。

著者たちは最南端を目指しマングローブの遊歩道を入口からまっすぐに進んで行った。入口付近には、ちょっとしたお土産売り場や、マングローブに生息する生物や植物

の説明や Tanjung Piai の歴史が書かれたパネルがあった。生物や植物の説明は遊歩道の途中にもいくつかあった。また。観光客と思われる人もいたが、マングローブの調査をしている中学生くらいの団体の方がたくさんおり、環境学習として訪れる人も多いようであった。遊歩道はマングローブを抜けると海の上に木造の橋が渡されたようにのびており、しだいに海が見えてきた。海の水は茶色く濁っていて、きれいな真っ青な海とは言えなかった。海はどこまでも続いており大きな船が見え海上交通の要所であるということを感じることができた。



(マングローブ)



(集合写真)

最南端の象徴が地球儀だと知らなかった著者たちは、遊歩道の先にあった小屋のようなものを最南端であると思いこみそこで記念写真した。しかし、来た道を引き返している途中で看板を見つけ最南端ではなかったことに気がついた。慌てて本物の最南端に向かった。再び別の道でマングローブの中を進んで行くと地球儀が見えてきた。無事、最南端で写真を撮ることができた。

この日は青空が広がりとても天気の良い日であった。上を見上げると太陽の回りに虹ができていた。とてもきれいだった。これは日暈と言い太陽に薄い雲がかかった際にその周囲に光の輪が現れる大気光学現象だそうだ。月の回りにできる月暈はみたことがあったが日暈を見るのは今回が初めてでとても感動した。

[タグ]

ジョホール、ユーラシア大陸最南端、マングローブ、岬、国立公園